

2017 年度  
調査報告書

スポーツボランティアに関する調査 2018



〔共同研究者〕

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授 工藤 保子  
山梨学院大学 現代ビジネス学部 教授 長倉 富貴



# 目 次

<b>1. 調査の概要</b>	-----	1
<b>2. 調査結果</b>	-----	3
1) スポーツボランティア実施状況	-----	3
2) スポーツボランティア活動の内容	-----	5
3) スポーツ以外のボランティアの実施状況	-----	7
4) ボランティアの実施状況：スポーツとスポーツ以外のボランティアの 関係から	-----	9
5) ボランティアをするきっかけとなった活動	-----	
6) 最も大切なボランティア活動	-----	13
7) ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラ リンピック競技大会のボランティア活動の実施希望状況	-----	14 15
8) ラグビーワールドカップ 2019 および 2020 年東京オリンピック・パラ リンピック競技大会のボランティア活動の実施希望理由	-----	21
9) スポーツボランティア実施希望状況	-----	23
10) スポーツボランティア活動経験別にみるスポーツボランティア実施希 望状況	-----	25
11) スポーツボランティア実施希望状況_他の調査との比較	-----	26
12) 今後希望するスポーツボランティアの活動内容	-----	27
13) スポーツボランティアとスポーツ実施、スポーツ観戦との関係	-----	29
14) 無自覚的スポーツボランティア実施状況	-----	31
15) 無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティア実施状況	-----	34
16) スポーツ組織所属者の無自覚的ボランティアを含むスポーツボラン ティア実施状況	-----	35
<b>3. まとめと考察</b>	-----	37
<b>4. 参考文献</b>	-----	40

# 1. 調査の概要

## 1) 調査の目的

成人のスポーツボランティア実施状況およびスポーツ以外のボランティアの実施状況に加えて、ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの参加ニーズを明らかにすることを目的とする。

## 2) 調査方法・対象

調査方法：調査会社の登録モニターを用いたインターネット調査

調査対象：全国の 20 歳代から 60 歳代

性別・年代別を考慮して割付け（回収数：10,000 サンプル）

## 3) 調査時期

2018 年 3 月

## 4) 調査項目

### (1) スポーツボランティア実施状況

過去 1 年間およびそれ以前の実施状況

### (2) スポーツボランティア活動の内容

以下の 3 分類・8 項目について、過去 1 年間およびそれ以前の実施状況と過去 1 年間の実施回数

①日常的な活動：スポーツの指導／スポーツの審判／団体・クラブの運営や世話／スポーツ施設の管理の手伝い

②地域のスポーツイベント：スポーツの審判／大会・イベントの運営や世話

③全国・国際的スポーツイベント：スポーツの審判／大会・イベントの運営や世話

### (3) スポーツ以外のボランティアの実施状況

以下の 11 分類について、過去 1 年間およびそれ以前の実施状況

①健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手、安全な食品を広めることなど）

②高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助けなど）

③障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）

④子どもを対象とした活動（子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）

⑤文化・芸術・学術に関係した活動

（日本古来の文化を広めること、美術館ガイド、講演会・シンポジウム等の開催など）

⑥まちづくりのための活動（道路や公園等の清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）

⑦安全な生活のための活動（防災活動、防犯活動、交通安全運動など）

- ⑧自然や環境を守るための活動  
(野鳥の観察と保護、森林や緑を守る活動、リサイクル運動、ゴミを減らす活動など)
- ⑨災害に関係した活動 (災害を受けた人に食べものや着るものを送ること、炊き出しなど)
- ⑩国際協力に関係した活動 (海外支援協力、難民支援、日本にいる外国人への支援活動など)
- ⑪寺院、神社、宗教に関する活動 (法要や行事の手伝い、布教活動など)
- (4) ボランティアのきっかけとなった活動および最も大切なボランティア活動  
スポーツとスポーツ以外のボランティア 19 分類について、ボランティアをするきっかけとなった活動と、過去 1 年間に行った活動の中で最も大切な活動
- (5) ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティア実施希望状況  
各大会の「大会期間中の競技会場や周辺でのボランティア」と「住むまちやその近隣に訪れる代表チームの事前合宿のボランティア」の実施希望状況とその希望理由
- (6) スポーツボランティアの実施希望状況  
今後のスポーツボランティアの実施希望状況と実施を希望する活動内容
- (7) スポーツ実施状況とスポーツ観戦状況  
過去 1 年間の定期的なスポーツの実施状況および観戦状況とその種目
- (8) 所属して活動している地域の団体および現在就いている市町村の特別職体育協会 (加盟競技団体含む)、スポーツ少年団など

## 5) 調査の実施体制

以下の 3 者による共同研究として実施した。

工藤 保子 (大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授)

長倉 富貴 (山梨学院大学 現代ビジネス学部 教授)

澁谷 茂樹 (笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主席研究員)